

3 産 業

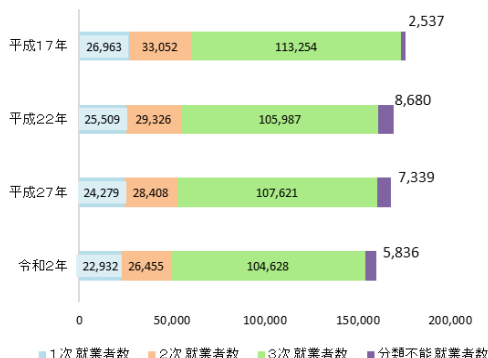
産業概要

管内は、農業、林業、漁業などの第1次産業が盛んであり、特に農業については、北海道の耕地面積(令和4年)の22.3%を十勝が占め、北海道農業の中心的な地域です。

就業者数の産業別構成比では、全道と比較して、特に農業従事者が多く第1次産業の割合が約2倍と高い一方、第3次産業の割合は低くなっています。

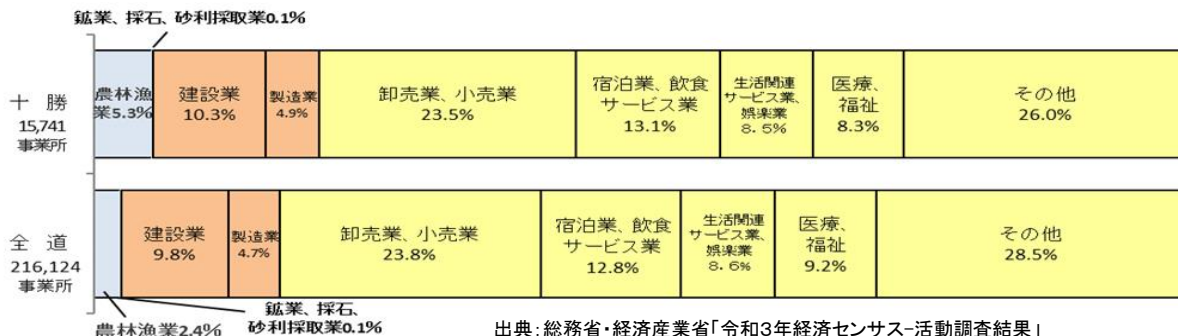
しかし、その推移を見ると、第1次産業及び第2次産業の構成割合は徐々に縮小し、第3次産業は拡大から横ばいに推移しています。

就業者数の産業別構成比の推移



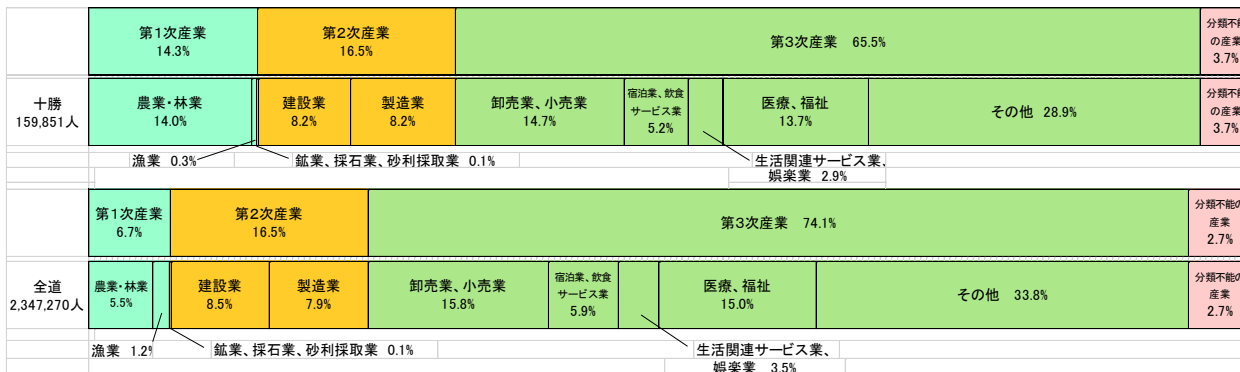
出典：総務省「令和2年国勢調査結果」
北海道「令和2年国勢調査結果統計表」

事業所数の産業別構成比



出典：総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査結果」
北海道「令和3年経済センサス-活動調査確報集計結果公表(北海道分)」

就業者数の産業別構成比

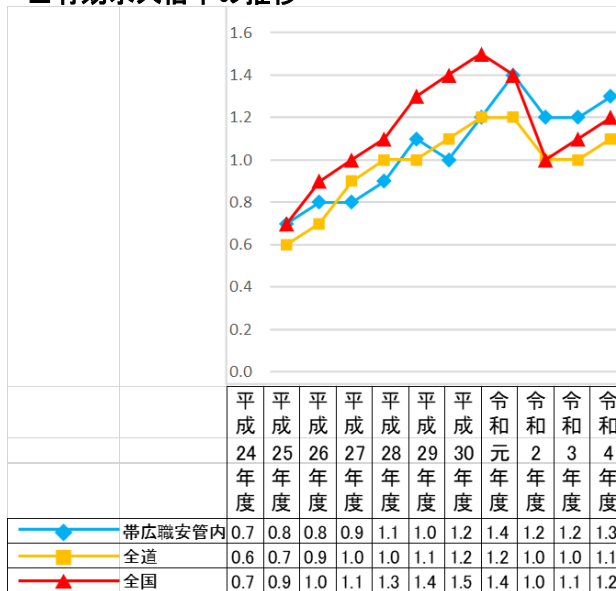


出典：総務省「令和2年国勢調査結果」
北海道「令和2年国勢調査結果統計表」

雇用情勢

令和4年度の有効求人倍率を前年度と比べると、雇用情勢に緩やかな持ち直しの動きが見られる中、全国で0.14ポイント、全道で0.11ポイント、帯広公共職業安定所管内は0.04ポイントのプラスとなりました。

有効求人倍率の推移



資料：厚生労働省北海道労働局「職業安定業務主要指標」及び厚生労働省北海道労働局「Labor Letter」

3 産 業

■ 食の総合産業化

管内19市町村等によって構成される「フードバレーとかち推進協議会」が設立され、十勝地域では「食」や「農林水産業」を柱とした地域産業施策「フードバレーとかち」が進められており、国や道の制度を活用しながら様々な事業に取り組んでいます。

●食クラスターの取組

道では、食産業、関連産業を始め様々な関係機関との連携・協働の下、北海道の豊富な農畜水産資源を活用した食クラスター活動を推進し、付加価値の高い商品を生み出し、これを国内外に向けて流通・販売し、また観光産業などとの融合を図るなど、北海道ならではの食の総合産業（一次・二次・三次産業）の確立に取り組んでいます。

食クラスターの全道的な推進母体である「食クラスター連携協議体」（平成22年5月19日発足）の事務局は、北海道経済連合会、北海道農業協同組合中央会、北海道経済産業局、北海道農政事務所、北海道開発局、ホクレン農業協同組合連合会、日本政策金融公庫及びび道で構成され、協議体には、令和6年2月1日現在、2,260社・団体・個人（十勝管内157社・団体・個人）が参画しています。

■ 食の地域ブランド化

台湾など海外でも人気の高い「十勝川西長いも」（帯広市川西農業協同組合）が平成18年に「地域団体商標制度」(*)の第1弾として登録されたことを皮切りに、「大正メークイン」、「大正長いも」、「大正だいこん」（帯広大正農業協同組合）、「十勝川温泉」（十勝川温泉旅館協同組合）、「めむろごぼう」、「めむろメークイン」（芽室町農業協同組合）、「十勝和牛」（ホクレン農業協同組合連合会）、「十勝若牛」（十勝清水町農業協同組合）、「いけだ牛」（十勝池田町農業協同組合）、「十勝ナイタイ和牛」（上士幌町農業協同組合）、「中札内村えだ豆」（中札内村農業協同組合）、「しほろ牛」（士幌町農業協同組合）が登録され、地域ブランドの育成や一層の販路拡大・利用者増が期待されています。

また、十勝産の優良な加工商品を登録する「十勝ブランド」の取組が、十勝ブランド認証機構（事務局：公益財団法人とかち財団）により進められています。この取組は、平成19年にスタートし、チーズ、パン、菓子、乳製品の4品目を対象とした認証制度だったものを、令和元年に①十勝産原料が51%以上、②十勝管内または十勝の事業者が製造主体、③法令遵守の3点を基準とした登録制度に変更し、現在、チーズ、乳製品、パン、スイーツ、飲料、農産加工品の184品登録されています。

水産分野においても、全道有数の漁獲量を誇る十勝産シシャモをはじめとした十勝の質の高い水産物の地域ブランド化や普及促進に向けて、北の屋台やホテルレストランでのメニュー提供など、関係者が一丸となり、様々な取組が展開されています。



十勝川西長いも



十勝産シシャモ

※「地域団体商標制度」とは

地域ブランドを適切に保護することにより、事業者の信用の維持を図り、産業競争力の強化と地域経済の活性化を支援することを目的として、特許庁が導入した制度です。

地域の名称と商品又はサービスの名称からなる商標が、一定の範囲で周知となった場合に、事業協同組合等の団体による地域団体商標の登録が認められます。

3 (1) 農業

十勝は、豊富な土地資源とすばらしい自然環境に恵まれ、規模拡大や基盤整備を進めながら、畑作や酪農を中心とした大規模農業経営を展開し、我が国の食料供給を担う重要な役割を果たしています。

管内の耕地面積は令和4年で254,600haと、全道の22.3%を占めています。

1経営体当たりの経営耕地面積は令和2年で45.7haと全道平均の約1.5倍、都府県平均の約21倍の規模となっています。

個人経営体に占める主業経営体の割合は全体の約87%と全国平均の22%を大幅に上回り、農業所得を主とする経営が圧倒的に多い状況にあります。

畑作は、麦類、豆類、馬鈴しょ、てん菜の畑作4品目を主体とした輪作体系が確立され、多くの品目で全道一の生産量となっています。

野菜は、長いもやだいこんなどの根菜類をはじめ、スイートコーンや葉物など多種多様な品目が生産されています。また、主要品目である長いもを筆頭に、えだ豆、ゆり根などは海外へ輸出されています。

酪農は、1飼養経営体当たり乳用牛飼養頭数が年々増加しており、令和2年で195頭と大規模化が進んでいます。また、令和4年度のホクレン受託乳量は1,304千トンで、全道の32.3%を占めており、全道最大の生産規模を誇っています。

肉用牛の飼養頭数は、令和2年で221,470頭と全道の42.9%を占めています。また、1飼養経営体当たりの飼養頭数は、295頭と全道平均168頭の約1.7倍となっています。

令和5年産の十勝管内農協取扱高（概算）は、過去2番目に高い3,573億円となっており、取扱高に占める耕種部門の割合は39.2%、畜産部門が60.8%となっています。

■北海道農業に占める十勝農業の地位

項目	単位	十勝	全道	全道比 (%)	振興局・総合振興局順位
総土地面積 (令和4年)	千ha	1,083.2	8,342.4	13.0	1
耕地面積 (令和4年)	千ha	254.6	1,143.0	22.3	1
うち田	千ha	0.8	222.0	0.3	11
うち畑	千ha	253.8	920.7	27.6	1
総耕地率	%	23.5	13.7	-	1
1経営体当たりの経営耕地面積 (令和2年)	ha	45.7	30.2	-	4
総農家戸数 (令和2年)	戸	4,948	37,594	13.2	3
販売農家戸数 (令和2年)	戸	4,830	32,232	15.0	3
個人経営体数 (令和2年)	経営体	4,511	30,566	14.8	3
うち主業経営体数	経営体	3,910	21,910	17.8	1
主業経営体率	%	86.7	71.7	-	3
農業従事者数 (個人経営体) (令和2年)	人	13,512	80,552	16.8	2
主要作物の作付面積					
小麦 (令和4年)	ha	43,900	130,600	33.6	1
馬鈴しょ (令和4年)	ha	22,200	48,500	45.8	1
大豆 (令和4年)	ha	11,300	43,200	26.2	1
小豆 (令和4年)	ha	12,499	19,100	65.4	1
いんげん (令和4年)	ha	4,328	5,780	74.9	1
てん菜 (令和4年)	ha	24,400	55,400	44.0	1
主要作物の収穫量					
小麦 (令和4年)	t	215,400	614,200	35.1	1
馬鈴しょ (令和4年)	t	771,600	1,819,000	42.4	1
大豆 (令和4年)	t	29,600	108,900	27.2	1
小豆 (令和4年)	t	29,596	39,300	75.3	1
いんげん (令和4年)	t	5,935	8,090	73.4	1
てん菜 (令和4年)	t	1,428,000	3,545,000	40.3	2
乳用牛飼養頭数 (令和2年)	頭	234,400	810,699	28.9	1
肉用牛飼養頭数 (令和2年)	頭	221,470	515,774	42.9	1
受託乳量 (令和4年)	千t	1,304	4,038	32.3	1
農業産出額 (令和3年)	億円	3,291	13,106	25.1	1
耕種部門産出額	億円	1,983	5,456	36.3	1
畜産部門産出額	億円	1,984	7,652	25.9	1

資料：1) 耕地面積は、農林水産省「耕地及び作物作付面積調査」
 2) 1経営体当たり経営耕地面積は、農林業センサスの「経営耕地面積」÷「経営耕地面積のある農業経営体数」で算出
 3) 主要作物の作付面積及び収穫量は、農林水産省「作物統計調査」及び「特定作物統計調査」、小豆、いんげんの十勝は、十勝総合振興局農務課調べ
 4) 受託乳量は、ホクレン受託乳量
 5) 農業産出額は、農林水産省「生産農業所得統計」
 6) その他は、農林業センサス

3 (1) 農業

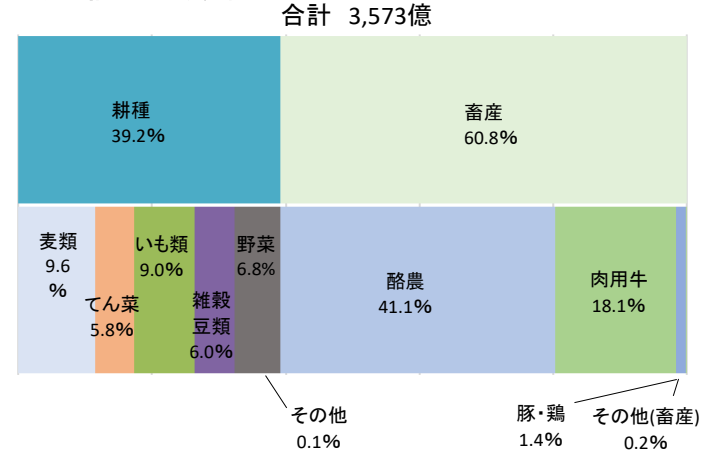
■農業従事者数(個人経営体)の年齢別構成比(令和2年)

(単位:人)

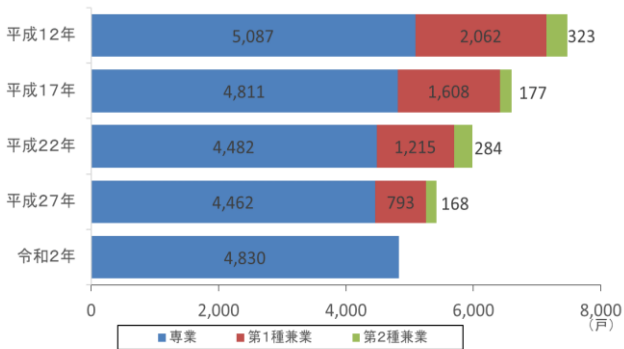
農業従事者数 (個人経営体)	総数	13,512
	男	7,404
	女	6,108
	15～29歳	904
	30～59歳	6,492
	60歳以上	6,116

資料:2020農林業センサス

■令和5年産農畜産物に係る十勝管内農協取扱高の作物別構成比(概算)

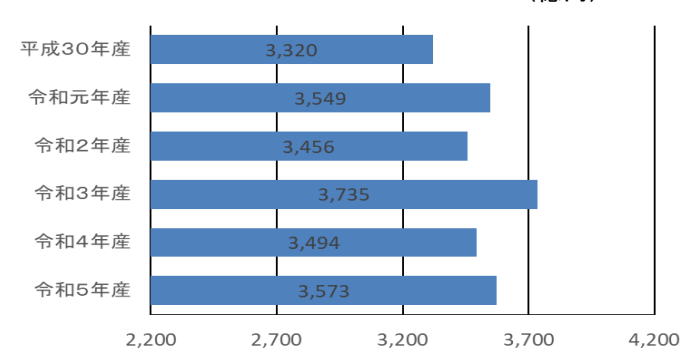


■販売農家戸数の推移



資料:農林業センサス。ただし、令和2年は合計戸数のみ。

■十勝管内農協取扱高(概算)の推移



資料:十勝地区農業協同組合長会、十勝農業協同組合連合会、十勝総合振興局産業振興部調べ

■グリーンツーリズム

「心の豊かさ」を重視する国民の価値観の高まりや自由時間の増加などから、農業、農村に新たな余暇活動の場として関心が向けられているが、こうした動きに対応し、十勝管内では、農業者自らが恵まれた自然環境等の地域資源を活かし、ファームインやファームステイ、ファームレストラン、観光農園などに取り組む事例が多く見られるようになった。

また、修学旅行や子ども農山漁村交流プロジェクト等の教育旅行における農作業体験活動等の需要に対応した受入体制として、平成24年3月にNPO法人食の絆を育む会が設立され、十勝管内における教育旅行の広域的な受入を行っている。

国では、農山漁村地域ならではの伝統的な生活体験や地域の人々との交流を行い、その地域に滞在する「農泊」を推進しており、インバウンド客のほか都市部からの観光客を呼び込むなど、関係人口増加に向け様々な地域で特色ある取組が行われている。管内では、農泊推進地域として8団体が採択され、体験メニューの開発や地域一丸となった受入体制の整備などが進められている。



農業体験(豊頃町)

■グリーンツーリズム関連施設数

(各年1月1日現在)

	グリーン・ツーリズム関連施設数										
	合計	ファームイン	農家レストラン	農業体験	観光農園	農産物加工体	直売所	乗馬体験	市民農園	農村公園	その他
平成31年	293	79	33	100	14	35	91	9	4	22	108
令和2年	280	71	31	109	15	35	92	9	4	19	104
令和3年	277	71	32	109	15	34	87	8	4	18	101
令和4年	260	70	35	97	16	32	87	7	4	18	94
令和5年	241	63	33	81	16	32	88	7	4	17	92

注) 受入施設等の内訳は延べ件数である

(グリーン・ツーリズム関連施設調査)

3 (1) 農業

北のめぐみ 愛食レストラン

北海道では、道内の宿泊施設・外食店のうち、北海道産食材を使用したこだわり（自慢）料理の提供を通じて、北海道産食材の積極的な利用や食材の素晴らしさをお客様に伝える地産地消（愛食運動）に取り組むお店を「北のめぐみ愛食レストラン」として認定しており、十勝管内では36店が認定されている（休止中を除く）。



管内の「北のめぐみ 愛食レストラン」認定店

(令和5年8月現在)

市町村	店名	区分	市町村	店名	区分
帯広市	銀シャリ亭くまだ	食堂	士幌町	ラーメンハウス三平 しほろ	ラーメン
	十勝豚肉工房 ゆうたく	豚肉料理		しほろ温泉プラザ緑風 レストラン「ペリオーレ」	レストラン
	そば処 匠	そば	鹿追町	NPO法人 アグリマンマごはんや	レストラン
	直営レストラン 大地のあきんど	居酒屋		鹿追やまべ園	食堂
	Anna★Anna	レストラン		レストラン&コテージ カントリーババ	レストラン
	yoshiyuki	レストラン		大草原の小さな家	レストラン
	バードウォッチ カフェ	レストラン	清水町	和みの風	宿泊施設
	蕎麦人	そば		ごはん屋ゆめあとむ	レストラン
	rapo café (ラポカフェ)	レストラン		展望レストラン とかち亭	レストラン
	お好み焼 なんちゃっ亭	お好み焼き		美蔓亭	レストラン
	日本料理 ゆう天	和食料理	芽室町	パン工房 カントリープラン	パン店
	Home Kitchen&Bar おはし	レストラン		畑の宿 モクモク十勝	宿泊施設
	自然派ラーメン めん吉 西帯広店	ラーメン		レストラン HIRO	レストラン
	帯広市畜産研修センター カウベルハウス	レストラン	中札内村	Café' &宿 カンタベリー	カフェ
ホテル大平原	宿泊施設	ファームレストラン野島さんち		レストラン	
蕎麦 二天	そば	ア・ラ・カルト・レストランウェザーコック		レストラン	
音更町	自然派ラーメン めん吉 音更町木野店	ラーメン	豊頃町	こだわりの店 はらっぱ	カフェ
	Café Jorro	レストラン		もみの木	パン店

各店の詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/shs/data/restaurant-index.htm>



ウスカ
(カウベルハウス)



牛玉ステーキ丼
(ごはん屋 ゆめあとむ)



ダツタンそば
(蕎麦 二天)



秋まき小麦の収穫(更別村)



作付面積・収穫量北海道一 えだ豆の収穫風景(中札内村)

3 (1) 農 業

十勝産チーズ工房

北海道では、新鮮かつ濃厚な生乳が日々生産されています。中でも酪農王国と呼ばれるここ十勝には、道産生乳を使用した多種多様なナチュラルチーズを製造している工房が数多く点在しています。

また、十勝総合振興局ではそれらのチーズ工房及び販売店を一同にまとめたマップ「北海道十勝チーズの道」を公表しています。



「北海道十勝チーズの道」掲載の営業工房等一覧

(令和4年11月現在)

市町村	工 房 名 等	TEL	市町村	工 房 名 等	TEL
帯広市	香林農園	0155-60-2567	芽室町	TOYO Cheese Factory	0155-62-0007
	十勝加藤牧場 乳と蜜と大地の工房	0155-60-2152		明治なるほどファクトリー十勝	0155-61-3710
	帯広畜産大学 畜大チーズ部	-	中札内村	花畑牧場	0120-929-187
	北海道帯広農業高等学校	0155-48-3051		十勝野フロマーシュ	0155-63-5070
	カチバル	0155-67-0407		トカブチ	0155-52-3870
音更町	よつ葉乳業 おいしさまっすぐ館	0155-42-2121	音更町	さらべつチーズ工房	0155-52-3195
	十勝品質事業協同組合	0155-67-6080		半田ファーム	0155-86-3182
土幌町	北海道土幌高等学校 食品加工施設	0156-45-3121	大樹町	雪印メグミルク株式会社 大樹工場	0155-86-2121
	大木ファーム/Ohki Farm	0156-45-5354		乳 life 坂根牧場	0155-86-5622
上土幌町	高木牧場チーズ工房 シロベル	0156-42-3283	広尾町	ゼンキュウファーム	0155-85-2158
鹿追町	鹿追チーズ工房	0156-67-2537	幕別町	チーズ工房 NEEDS	0155-57-2511
新得町	広内エゾリスの谷チーズ社	0156-67-9240		大樹農社 湖水地方牧場	0155-87-8555
	共働学舎新得農場	0156-69-5600	池田町	ハッピーステーリィ	0155-72-2001
清水町	十勝千年の森 キサラファーム	0156-63-3800	足寄町	しあわせチーズ工房	0156-26-2585
	あすなるファーム	0156-62-2277		あしよるチーズ工房	0156-25-7002

「北海道十勝チーズの道」は下記URLからご覧ください。

<https://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/num/hokkaidotokachicheese.html>

十勝和牛

十勝総合振興局では、広大な大地と十勝晴れの太陽をいっぱい浴びて育った「十勝和牛」の普及活動に取り組んでいます。

十勝和牛の条件は、十勝管内の生産者427戸（2023年4月1日現在）でつくる「十勝和牛振興協議会」の会員が肥育し、ホクレン十勝枝肉市場に上場された黒毛和牛、道内で生産され十勝管内で飼育、粗飼料は牧草、稲わら、麦稈などがふんだんに与えられている必要があります。

管内の十勝和牛販売店・取り扱い飲食店

(令和6年2月現在)

市町村	店 名	住 所	種 類
帯広市	かんの精肉店	帯広市大通南28丁目17	販売店
	ミートとみおか	帯広市西2条南8丁目18	
	(有)中塚食品	帯広市東4条南5丁目18-6	
	高橋肉店	帯広市東2条南14丁目8	
	平和園本店	帯広市大通12丁目1	飲食店
	焼肉ハウス東大門	帯広市西1条南18丁目2	
	和牛ダイニングマルイ商店	帯広市大通南10丁目19	
	やきにく遊美館	帯広市東3条南13丁目5	
	焼肉じゅうじゅう	帯広市西17条南36丁目2	
	炉ばた 炭焼 膳	帯広市西1条南10丁目9	
	焼肉はま屋	帯広市東9条南16丁目1	
JUICYDISH焼肉南大門	帯広市西3条南19丁目1	飲食店	
音更町	音更町木野西通9丁目6		
音更町	旬の野菜と焼肉 大地の匠	音更町十勝川温泉北13丁目1	販売店
幕別町	木川商店	幕別町本町120番地	
清水町	辻屋精肉店	上川郡清水町本通3丁目1	販売店
新得町	(株)上田精肉店	上川郡新得町1条南2丁目7	

十勝和牛の詳細は下記URLをごらんください。

<http://www.tokachiwagyu.com/> (十勝和牛プロジェクトHP)



【十勝和牛】

3 (2) 林業

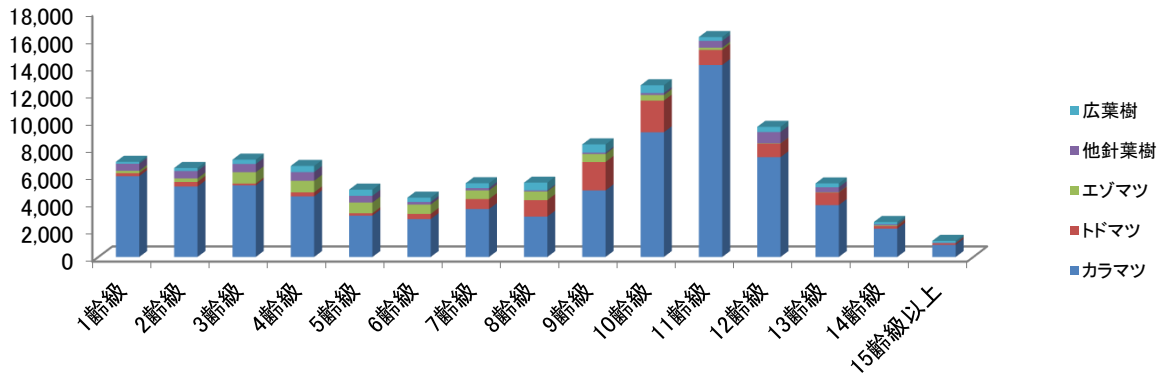
十勝管内の森林面積は、管内の総土地面積の64%に当たり、全道の森林面積の12%を占める主要な林業地帯となっています。所管別の森林面積は、国有林が全体の60%、道有林が7%、一般民有林が33%を占めており、林相別では、天然林が70%、人工林が25%を占めています。特に一般民有林の人工林では、カラマツが大半を占め、十勝の主要な樹種となっています。林齢の高い人工林が面積で全体の約6割を占めており、利用期を迎えて伐採量が増加しております。

一方、森林所有者の経営意欲の減退などから、伐採後の植林が行われずに放置されている森林も見られることから、十勝総合振興局では、市町村や森林組合と連携し伐採後の確実な更新の確保に向け取り組んでいます。

また、管内市町村や森林組合、道有林等で構成する「とかち森林認証協議会」では、SGEC※森林認証を取得し、持続可能な林業経営の実現と産出される認証木材の利用促進に向けた取組を進めています。

※森林認証制度の一つ。「一般社団法人緑の環境認証会議」が管理・運営。十勝管内では「とかち森林認証協議会」や道有林（十勝管理区）などが取得。

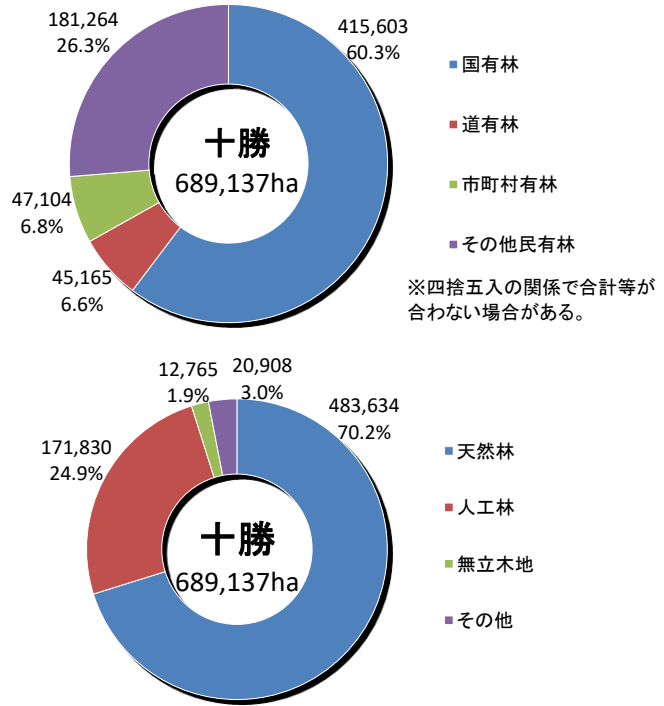
■人工林(一般民有林)の齢級構成



※齢級：年齢を5年ごとに分けた階級

資料：令和4年度 北海道林業統計

■森林面積の構成比



資料：令和4年森林資源構成表



カラマツ原木の集荷



山行用カラマツの苗畑

3 (3) 水産業

十勝管内では、広尾町、大樹町、豊頃町及び浦幌町の4町が太平洋に面しており、海岸線総延長は約100kmにおよんでいます。その大部分が砂浜で、岩礁地帯は南部の一部地域だけとなっています。

沖合は、黒潮と親潮が交錯する有数の好漁場で、サケ・マス、スケトウダラ、シシャモ、タコ、ツブ等を対象とした漁業が行われています。

秋サケ、ウニ、マツカワの種苗放流や新たな魚貝類養殖など栽培漁業の積極的な展開を図るとともに、ケガニ、シシャモなど資源の合理的利用を目指した資源管理型漁業の定着の促進、さらには、漁業資源の維持増大を図るため、魚礁や産卵礁の設置事業を進めています。

また、水産関係者と飲食業界が連携・協力し、十勝産のシシャモを使った特別メニューを提供するフェアの開催や、厳選された良質な秋サケをブランド化した大樹漁協の『樹煌土(きこうし)』や広尾漁協の『広輝(こうぎ)』の販売など、十勝産水産物の販売促進の取り組みを行っています。



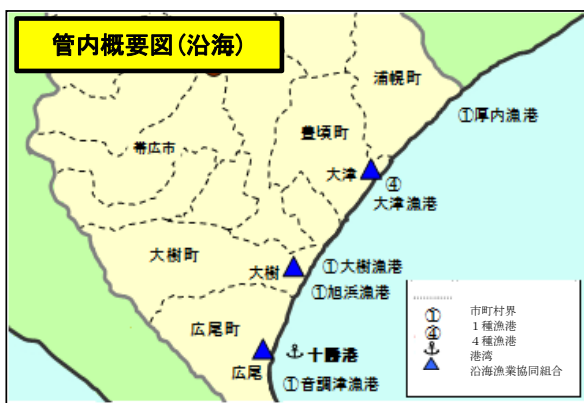
秋サケ定置網漁業の水揚げ



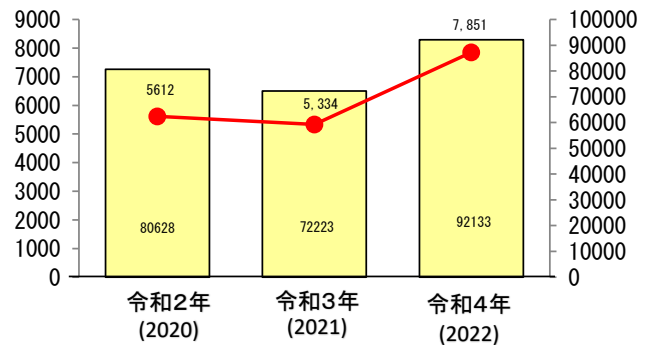
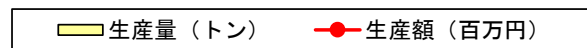
サクラマス養殖試験



ブランド秋サケ『樹煌土』、『広輝』

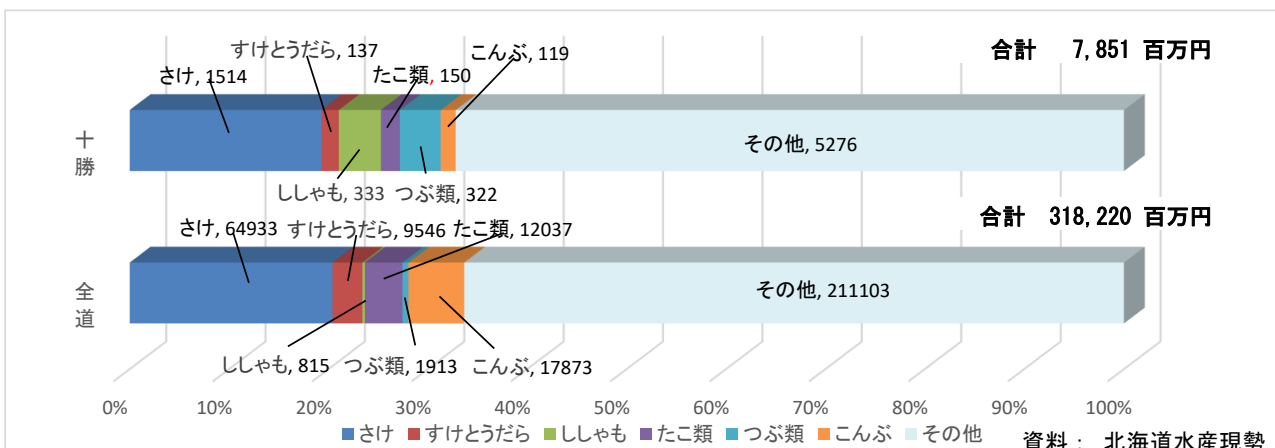


■漁業生産の推移



資料：北海道水産現勢

■生産額の魚種別構成比 (令和4年)



資料：北海道水産現勢